

文化都市へのあゆみ

戦後地方公共団体の財政難は全国的な問題となり、芦屋市もその例外ではありませんでした。そうした中でも、下水道事業などの都市施設を重点に、文化住宅都市に向かって整備が行われました。

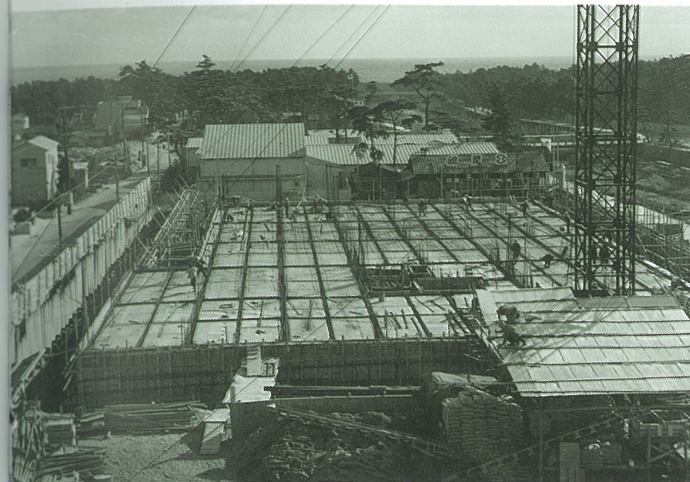
昭和30年代の中ごろに、健全財政を取り戻した芦屋市では、以後本格的に都市機能をはじめ文化施設の建設にもとりかかりました。



芦屋市市庁舎 昭和35年8月完成

新しくなった市役所

精道村時代、全国の町村に偉容をほこった庁舎も、市勢の発展に対応するには不便となり新庁舎建設の企画がたてられました。旧庁舎の南に昭和34年10月、新築工事にとりかかり、35年8月16日に落成、市制施行20周年記念として落成式が挙行されました。



工事中の市庁舎 昭和35年2月



市庁舎落成式 昭和35年8月



全容を現わした市庁舎 昭和35年8月

市民への窓口

昭和15年、精道村は全国で173番目の市となりましたが、その直後から第2次世界大戦の影響を受けるという波乱のスタートでした。

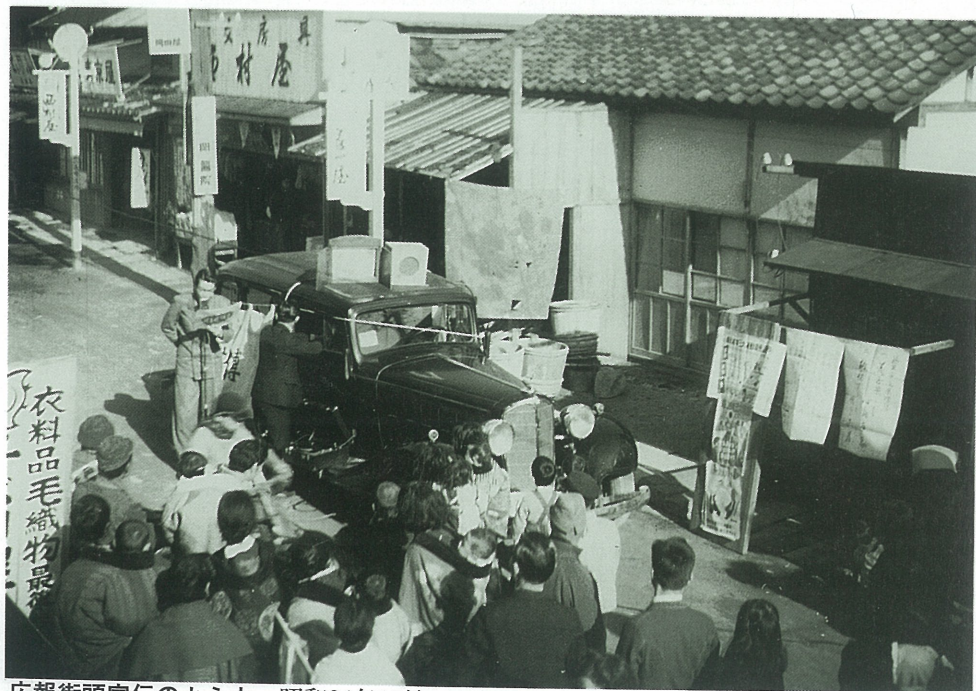
昭和20年に終戦を迎え、戦災や数度の風水害で受けた大きなつめあとも、市民の手で力強く復興されてきました。そして、戦後新しい民主主義の担い手としてできたのが広報委員会でした。芦屋市では早くからこの設置に取り組み、24年4月広報委員会を発足させました。

当時の広報紙には必ず「広報委員会だより」の欄があり、委員会の動きを報じています。

昭和27年1月末には、全市民に広報委員会の目的や委員名簿付きのパンフレットを作成し、各町の委員を通じて全戸に配布しています。また、同年7月に、山手小学校で第1回市民懇談会を開催し、市民生活に関係の深い衛生・経済・厚生などについて市職員が説明、現在秋に行われている地区懇談会がスタートしました。



市民課の窓口風景 昭和42年ごろ



広報街頭宣伝のようす 昭和24年12月



芦屋市広報委員会主催の地区懇談会 昭和28年ごろ



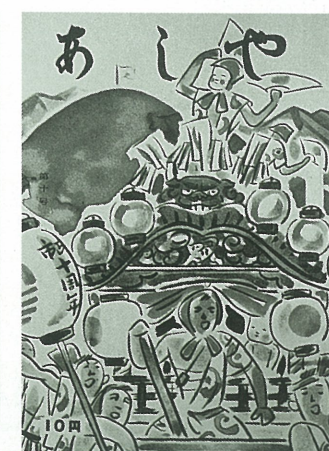
昭和32年ごろの広報車



市役所山手出張所 戦後、配給のため、市内4カ所に出張所が設置された。



創刊当時の広報「あしや」 手前が創刊号(B6判のころ)



「あしや」第10号表紙 昭和25年10月発行のもので、市制10周年を祝う秋祭りのようすが描かれている。



昭和40年代の「広報あしや」

清潔なまちづくり

昭和30年10月、環境衛生協会が設立され、行政とともに「蚊・蠅のいない明るい生活」実践運動を展開し、県指定のモデル地区に指定されています。このほか、ねずみ駆除運動も推進してきました。

ごみ収集は、路上のごみ箱へ随時投入し、肩引（かたびき）車による焼却場への運搬の時代を経て、衛生上の

理由や美観対策から直取りの時代を迎えました。

昭和32年8月からは、他都市に先がけて道路上からごみ箱を一掃し、全市ペール缶またはポリ袋による収集に移行、また街路側溝の清掃を重点的に実施するなど、清潔なまちづくりに取り組んできました。



昭和29年ごろのごみ収集風景



ごみ箱撤去モデル地区 昭和40年8月



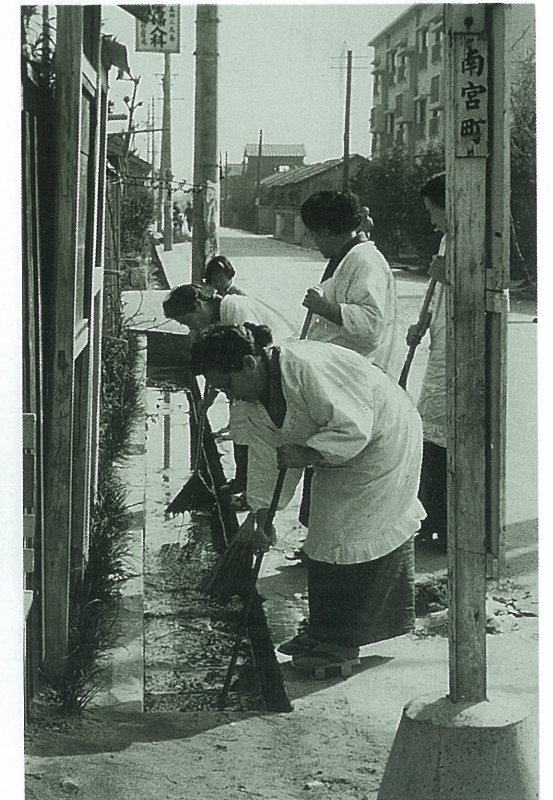
ペール缶によるごみ収集のようす 昭和37年



空からの薬剤散布 昭和42年



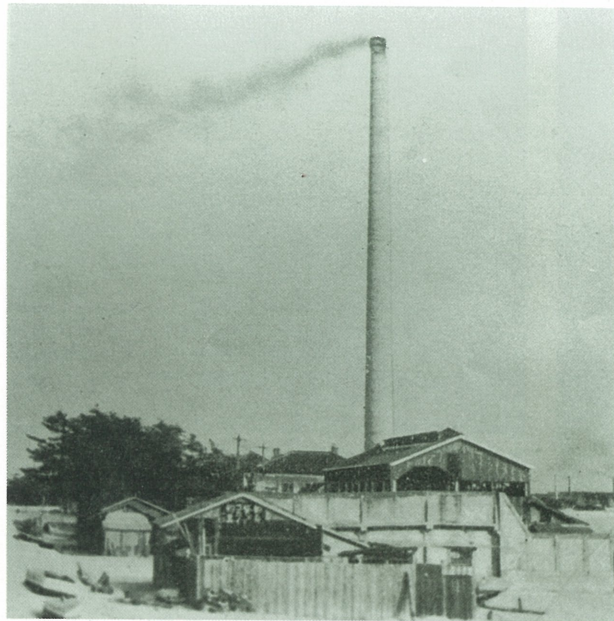
みぞへの薬剤散布 昭和40年



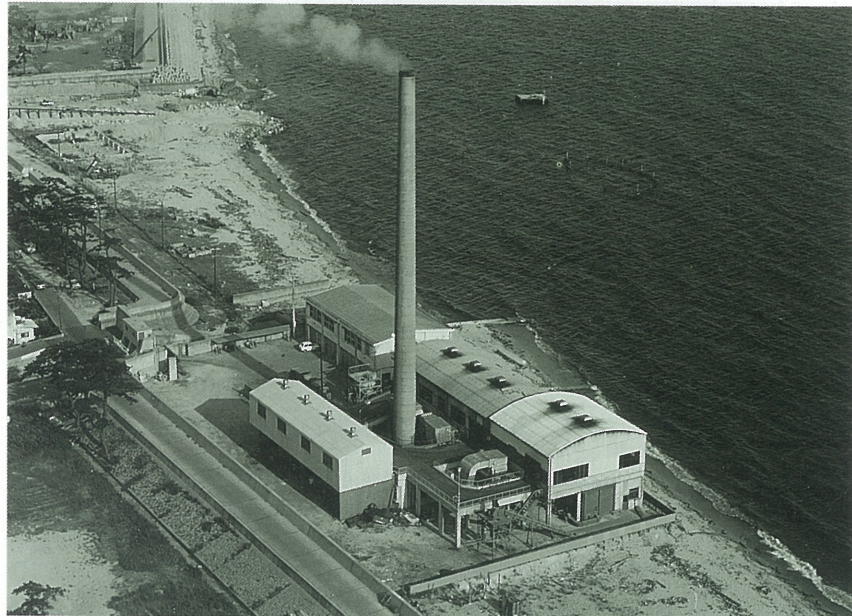
ごみのないまちへ市民も協力 昭和35年3月



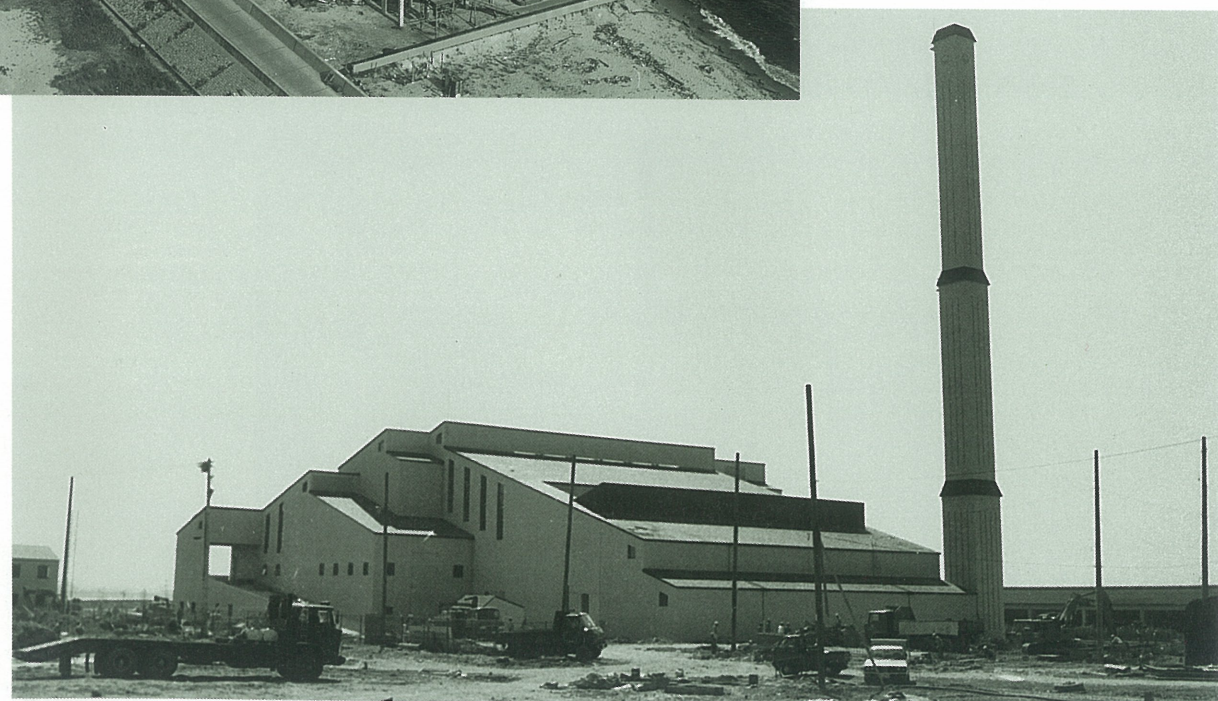
し尿中継所 昭和32年ごろ



昭和30年ごろの塵芥焼却場



焼却場 昭和38年完工した清掃工場



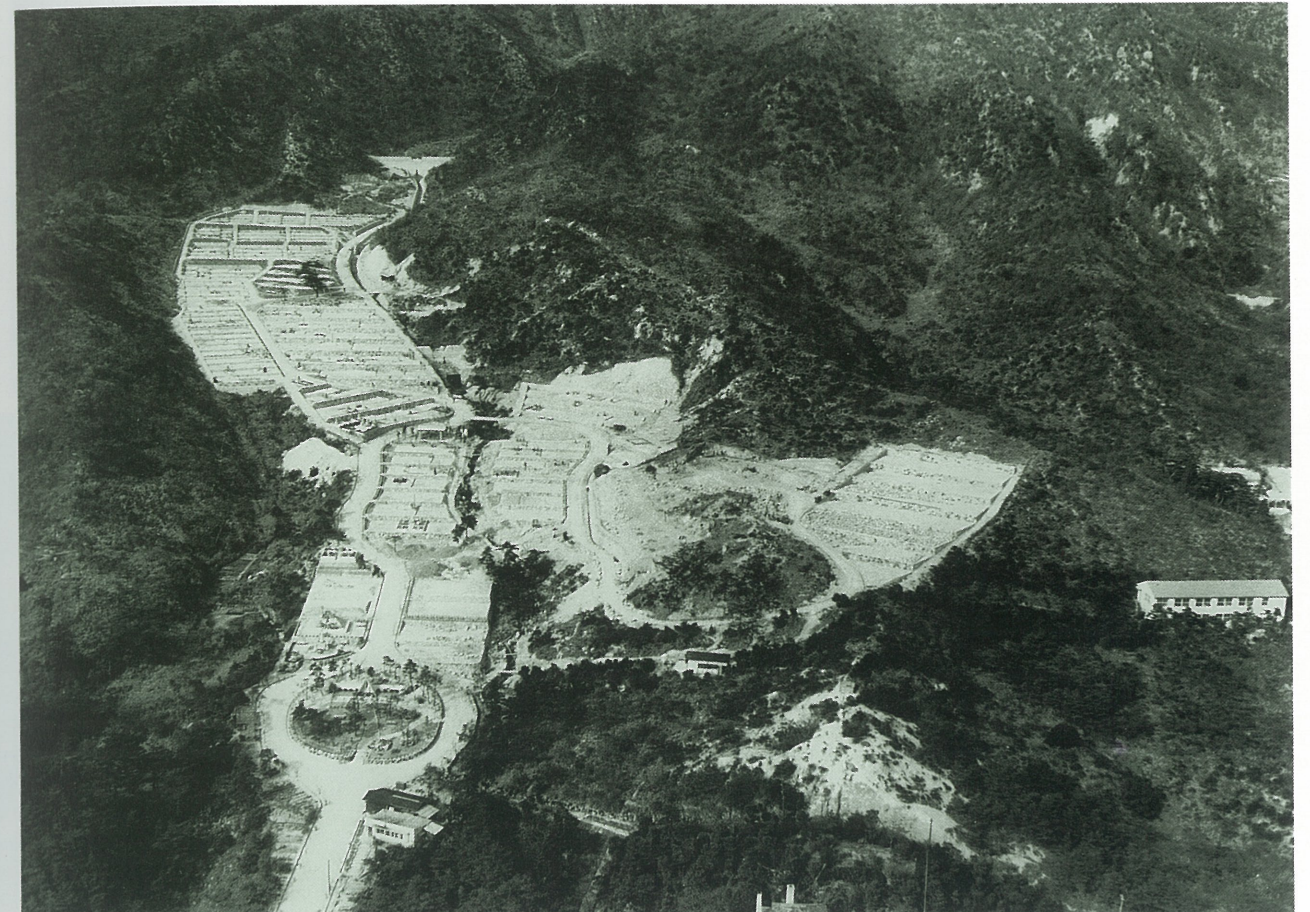
芦屋浜埋立地に建設された清掃工場 昭和52年開設

霊園

芦屋市霊園は、市域の東北標高250メートルの劔谷国有林の丘陵地に位置しています。

背山を緑に包まれ芝生と花と緑樹のなかに広場や水路・散策路がめぐり、大阪湾が一望できる展望台もあります。桜の開花期には、2,000本の桜ですばらしい景観となります。

昭和28年、近代的な明るい公園墓地として建設に着手、翌年から45年までに、光明地藏などの建立、旧村時代からの墓地の移転、無縁塔の完成、ヒナ壇式軍人墓地、在留外人墓地、芦屋観音像、戦災慰霊碑の建立など、つぎつぎと整備されました。



空から眺めた初期の霊園全景 昭和32年4月



芦屋市霊園 昭和33年ごろ



霊園の桜 昭和30年ごろ

消 防

昭和22年、消防組織法が公布されて、御影町や魚崎町など、西部5カ町村による組合消防署が創設されましたが、10月になって、芦屋市単独の消防本部および消防署として新たに発足しました。

昭和37年には、鉄筋2階建て・塔屋5階建ての消防本部庁舎が精道町95番地に落成しました。

昭和41年には救急自動車の寄贈を受け、救急業務も開始しました。



市制施行直後の常備消防部



新しくなった消防本部庁舎 昭和37年落成



旧消防本部 昭和36年ごろ 旧市庁舎南側にあった消防本部は、現市庁舎の建設にともない、東側の当時の分庁舎(現消防本部の位置)へ一時移転した。



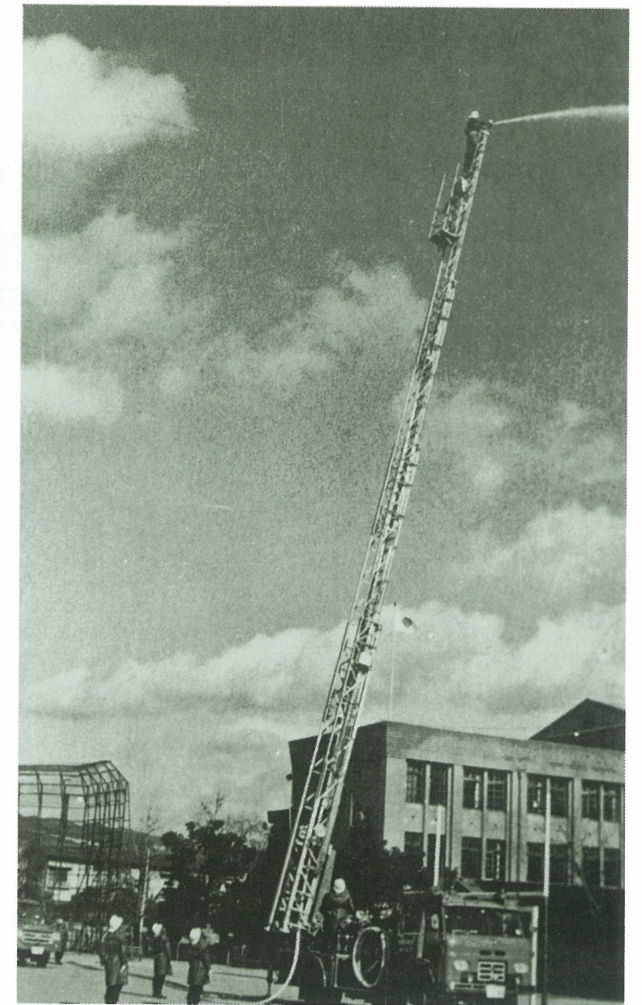
火の見やぐら 阪急の北側西山町にあった火の見やぐら 昭和32年



芦屋消防署高浜分署 昭和54年開設



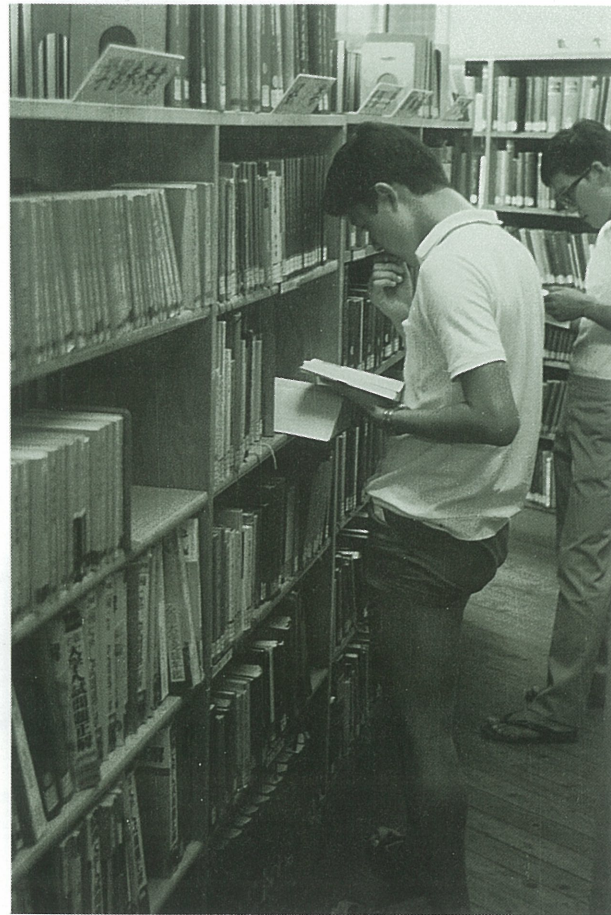
化学消防車 昭和45年



はしごつき消防ポンプ自動車 昭和46年ごろ

市立図書館

昭和25年の「図書館法」の制定に先がけて、芦屋市では24年5月に前田町の仏教会館3階を借用して改装、市立図書館を開館しました。やがて蔵書数や利用者の増加によって29年2月、打出小槌町2番地の石造2階建て洋館の建物と敷地を買収し、独立の図書館として改装移転しました。当時の特色としては、芦屋読書人クラブの寄贈図書や「田尾スポーツ文庫」の開設があげられます。



図書館 開架式閲覧室 昭和45年ごろ



市立図書館内部 昭和33年



打出小槌町に移転した当時の旧図書館 現在、教育文化センターとして整備されつつある。



移動図書館「こづち号」 昭和60年5月



「こづち号」の内部 昭和60年5月

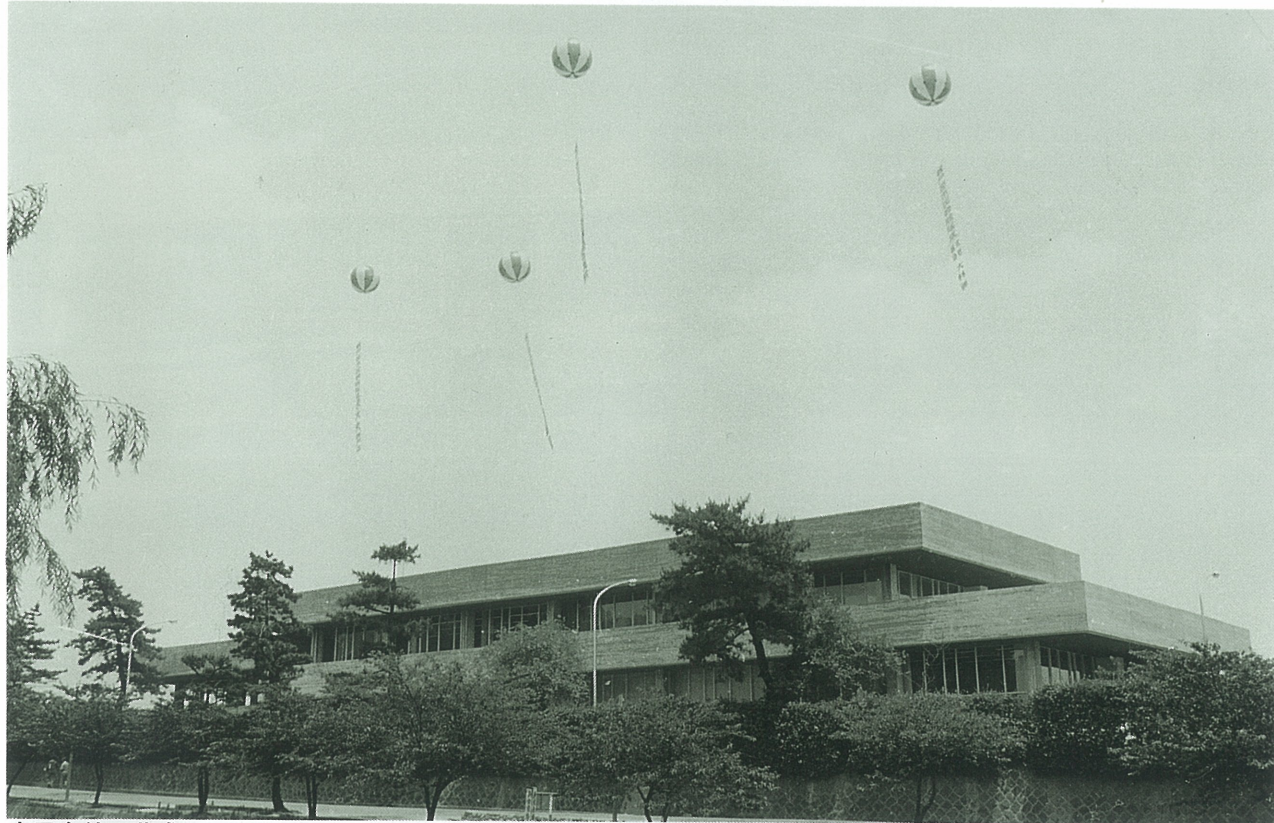
公民館・市民会館

公民館は、昭和28年、川西町の教育委員会事務局(現体育館の位置)の集会室を利用して開館し、翌年3月、図書館移転後の仏教会館3階に移りました。公民館と関係の深い社会教育関係団体も多くなり、各種の講座、展示会、文化祭などの文化行事も盛んに展開するようになりました。

昭和33年9月、市民会館建設準備室を設置、業平町8番24号の旧公会堂跡に建設が決まり、38年2月着工、11月に竣工、公民館も併設され、45年3月までに本館、ルナ・ホールが完成しました。



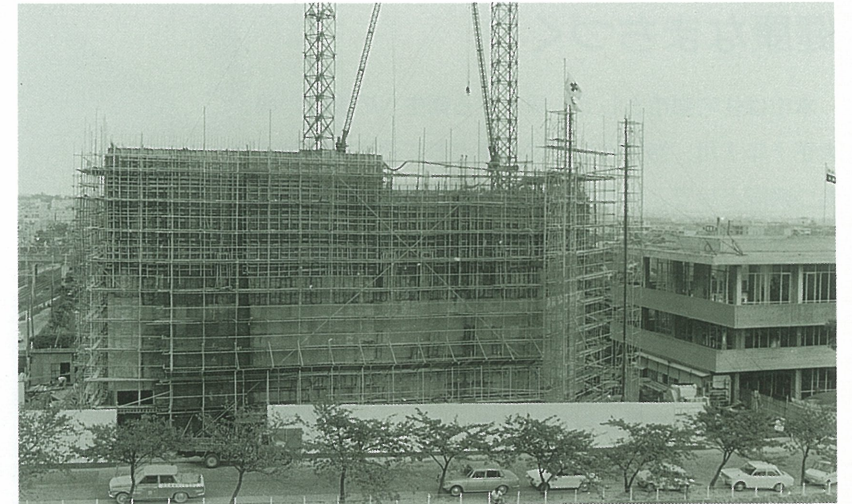
公民館活動をご視察の皇太子ご夫妻(当時) 昭和43年8月



市民会館の落成



市民会館玄関



建築中のルナ・ホール 右手が市民会館



市民会館とルナ・ホール 昭和45年



ルナ・ホール落成式での催し



ルナ・ホールでの催し

健康なまちづくり

本市は住宅都市として、早くから衛生への関心が高く、大正7年7月、当時としては名実ともに近代的な設備をもつ病院として、精道村立伝染病院を開院しました。

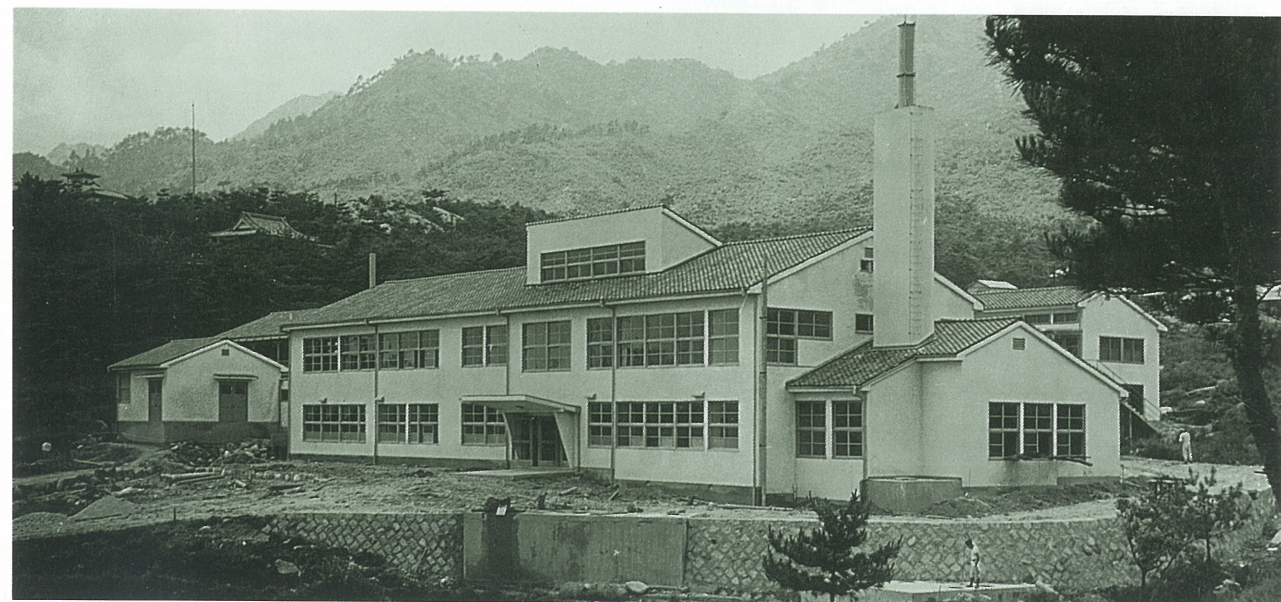
その後、昭和27年市民の保健衛生の中心として市立芦屋病院が開設され、伝染病院は35年芦屋病院隔離病舎として同一敷地内に新設移転されました。

昭和45年、芦屋病院は総合病院となり、地域の中核病院としての役割を果たしています。

また、健康都市づくりの一環として、保健センターでは、各種の検診、予防接種など、市民の健康に関する業務を行い、市民の健康づくりに努めています。



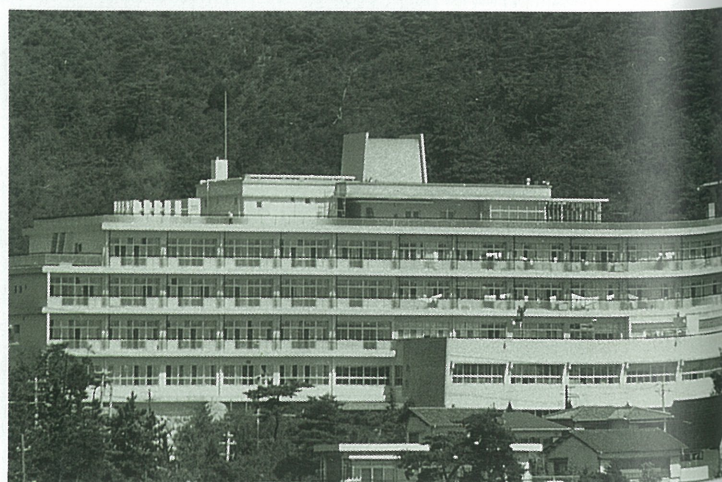
精道村立伝染病院



開設当時の市立芦屋病院 昭和27年



改装された市立芦屋病院 昭和38年ごろ



改装なった市立芦屋病院 昭和46年ごろ



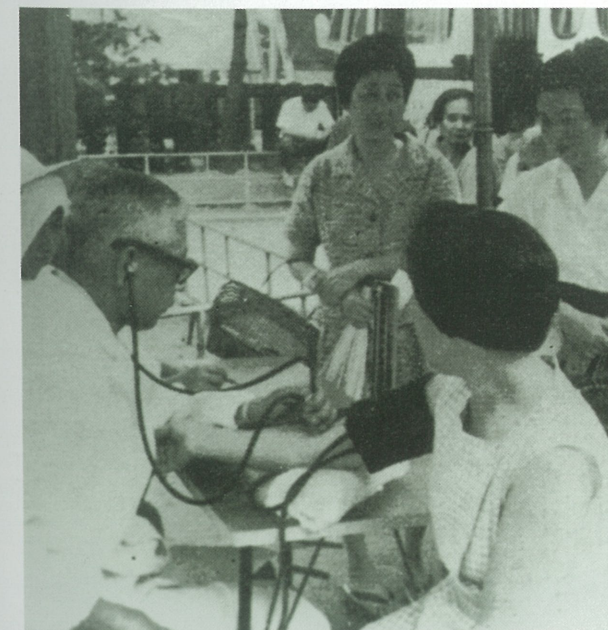
保健センター 昭和46年「健康センター」として市役所旧庁舎に設置され、昭和56年現在の位置に移った。



新入生の健康診断 昭和33年



芦屋いずみ会 昭和25年発足、食生活の改善や健康体操、ひとり暮らしのお年寄りのお世話など、幅広い活動をつづけている。



市民健康診断 昭和40年ごろ



移動診断 市民結核健康診断 昭和34年8月

上水道

昭和13年4月に精道村営事業として発足し、20年の戦災で配水系統に多大の被害を受け、その整備補修に悩まされました。

市は、たえず水源の確保につとめ、北部開発などともなう人口の急増に対応するため42年から46年にかけて奥池ダムの建設事業を行い、容量3,000トンの高区用配水池の新設をすすめました。



まだ奥山貯水池がなかったころの奥池 昭和41年



奥山貯水池をつくる工事 昭和44年



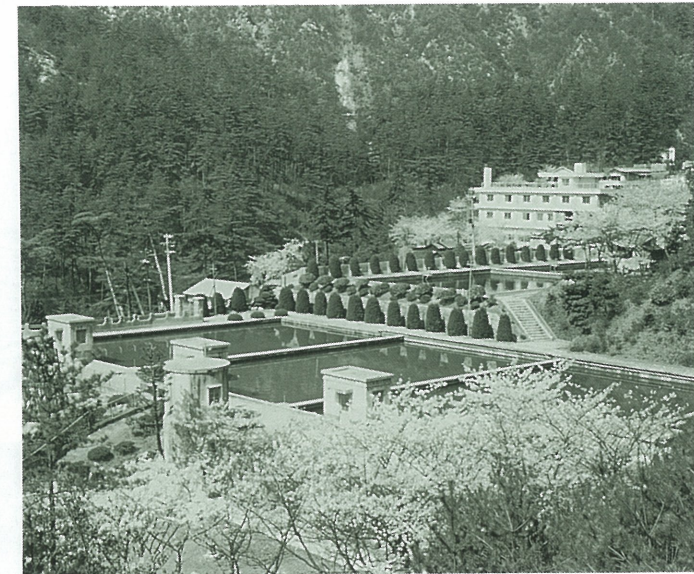
水をためはじめた奥山貯水池 昭和46年



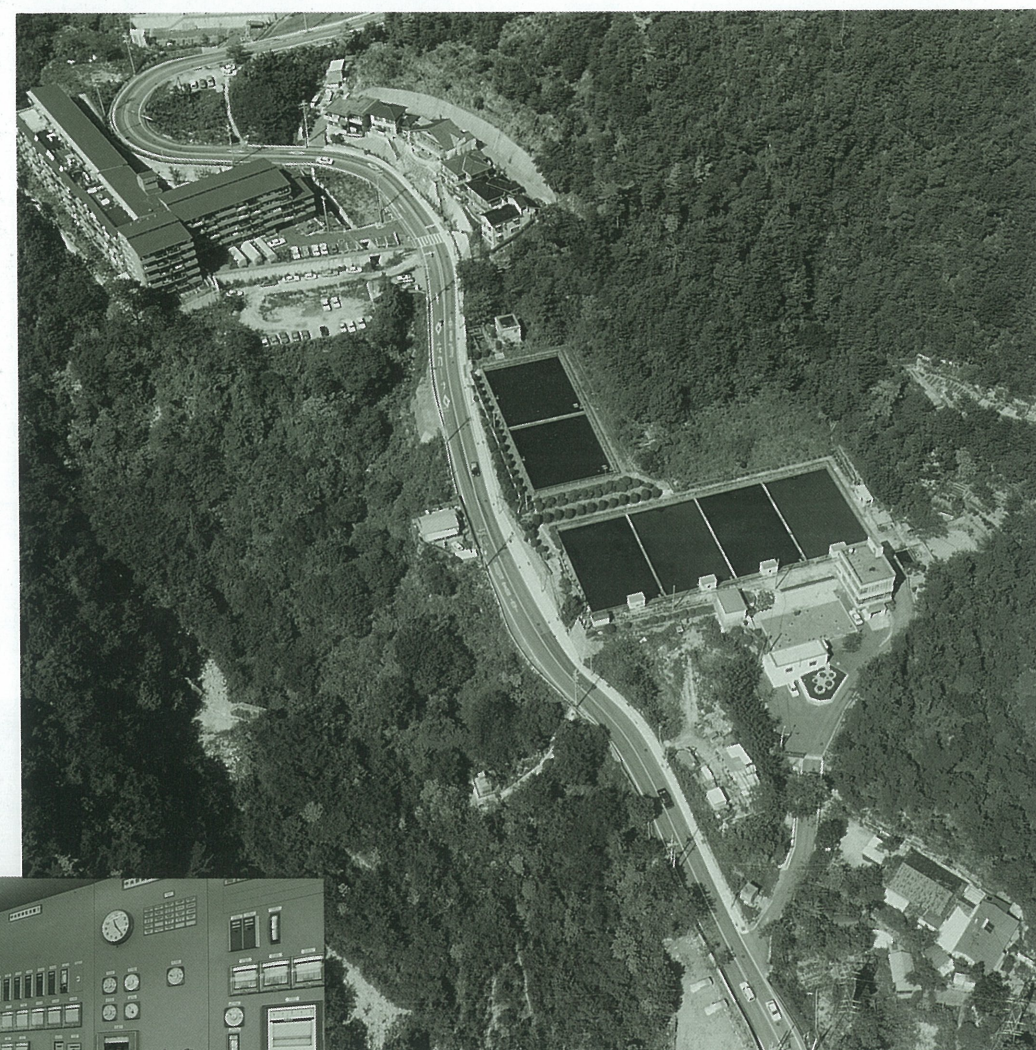
完成した奥山貯水池(右)と奥池 昭和47年



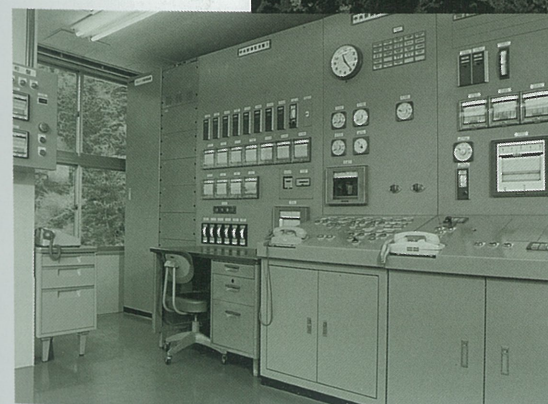
六麓荘水道施設工事 昭和32年4月



奥山浄水場 昭和38年4月



奥山浄水場全景 昭和62年



奥山浄水場機械室 昭和63年

下水道

芦屋市の下水道は、昭和10年5月、阪急以南の全地区および北部の住宅地域の一部を対象に、都市計画事業として事業認可を受け着手しました。第2次世界大戦によって工事は一時中断しましたが、30年から49年度までの20カ年長期計画で再開されました。これは国道43号の新設に伴う排水系統の変更、市民生活の向上による汚水量の増加、下水放流による海域の汚染など、早急な改善を迫られることになったためです。

昭和35年、伊勢町の海岸に下水道終末処理ポンプ場を建設し、南部低地帯の浸水防止に対処しました。

昭和46年には第2次下水道整備7カ年計画がスタートして、下水処理場の建設に着手し、49年7月に通水を開始しました。



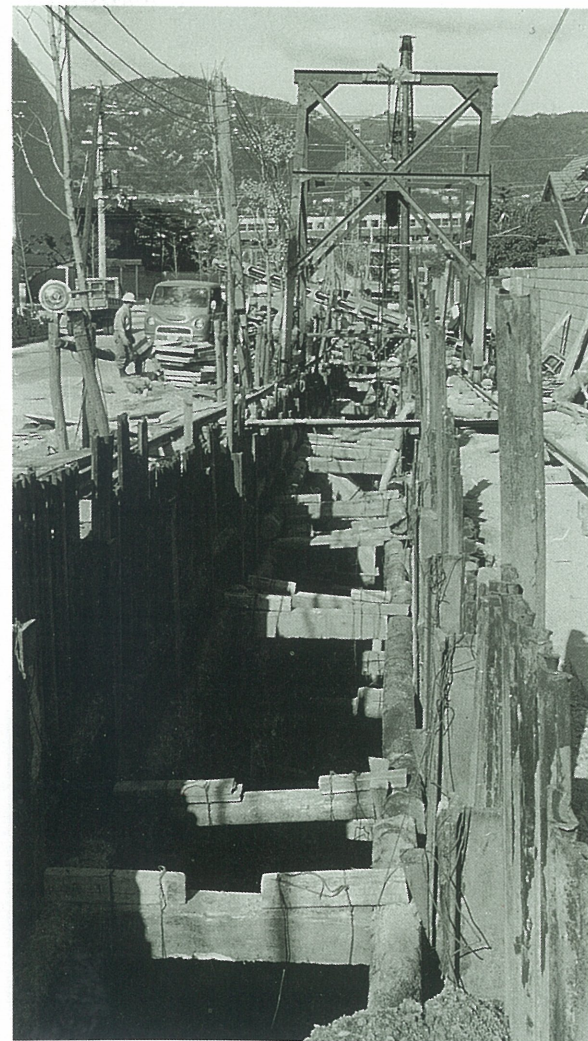
現在は景色をあしらったマンホールのふたが使われている。



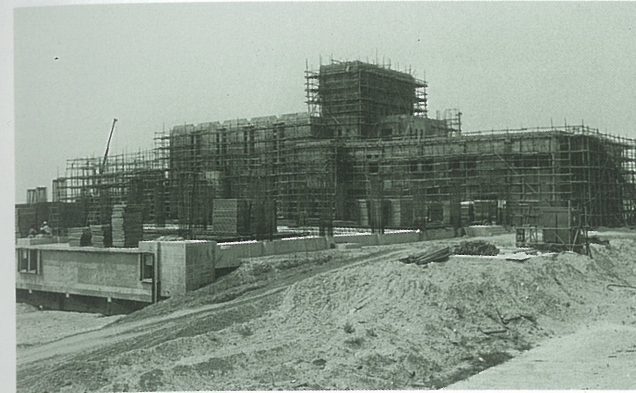
下水道工事 昭和33年



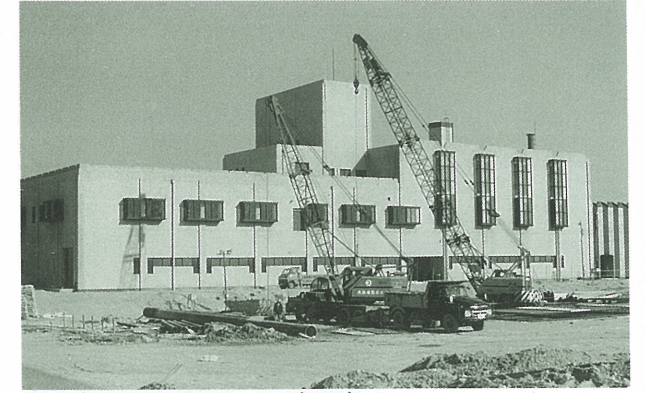
下水道工事(川西町) 昭和44年8月



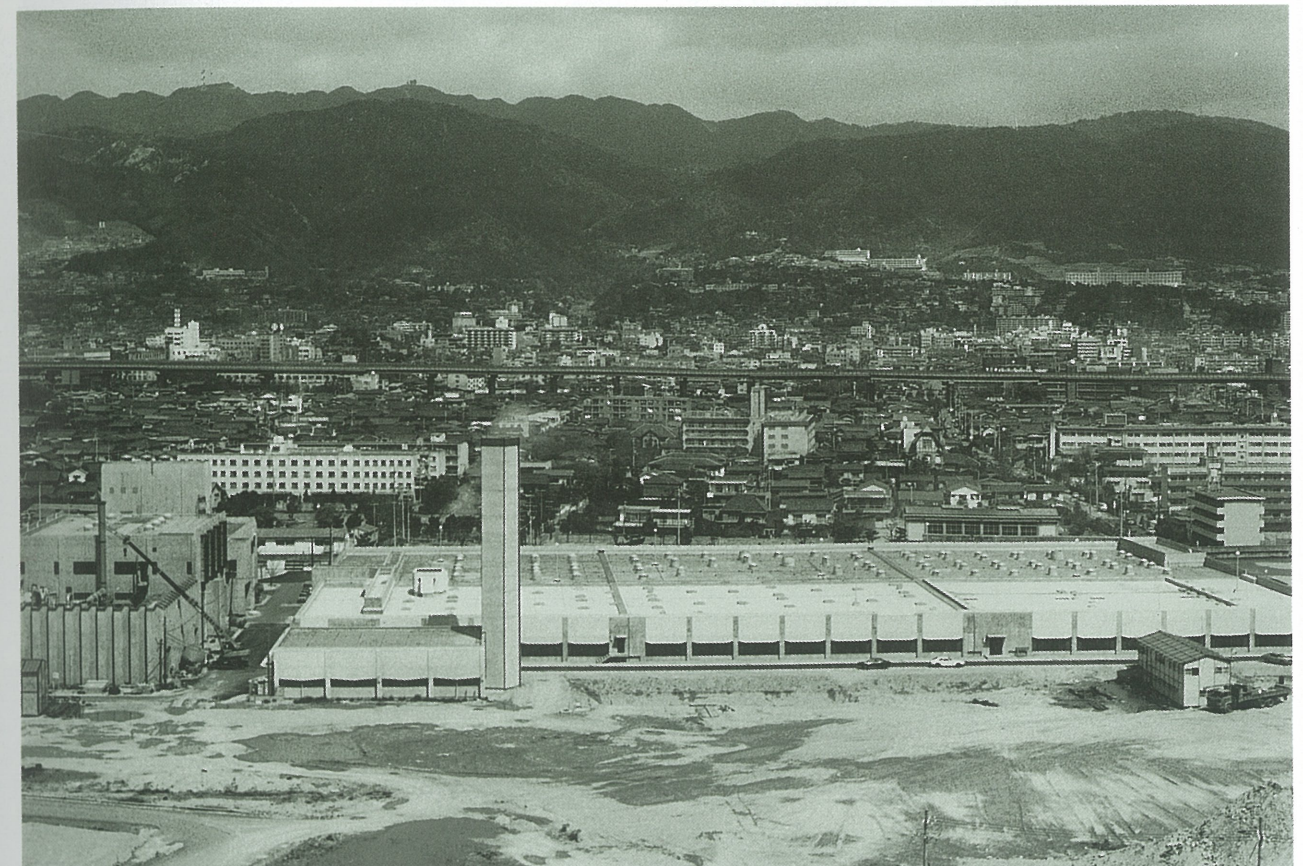
どんどん延びる下水道網 昭和46年ごろ



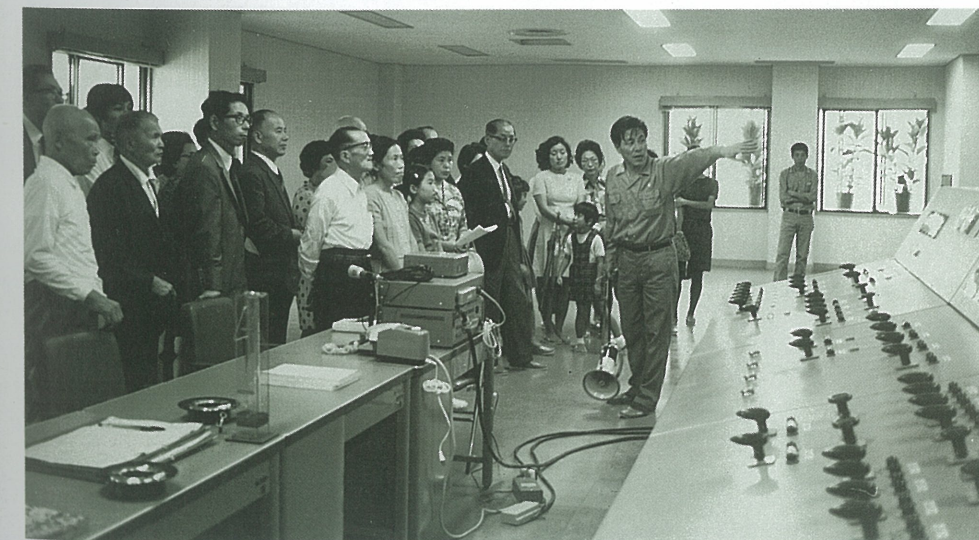
建設中の下水処理場 昭和47年



建設中の下水処理場 昭和47年



下水処理場 芦屋浜埋立地内に建設された下水処理場は昭和49年7月に通水を開始。



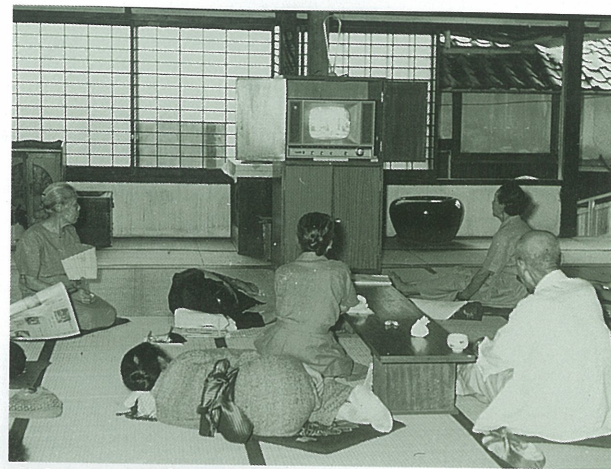
下水処理場市民見学会 昭和48年9月20日

生きがいのある老後

昭和26年10月、社会福祉事業法の制定を受けて、福祉事務所が設置され、現在の福祉行政の基礎ができました。

昭和38年老人福祉法施行とともに、老人クラブ連合会が結成され、40年養護老人ホーム「和風園」の開園と、生きがいのある暮らしのために、在宅福祉、地域福祉の充実を軸にした総合的で効率的な福祉をすすめています。

近年は、人口に占める高齢者の割合がだんだんと高くなってきており、これに伴い、生きがいのある明るい毎日が送れるよう、老人ホームの充実、家庭奉仕、短期保護などに力を入れ、心の通い合った福祉のまちの実現に努めています。



老人いこいの家 昭和36年ごろ



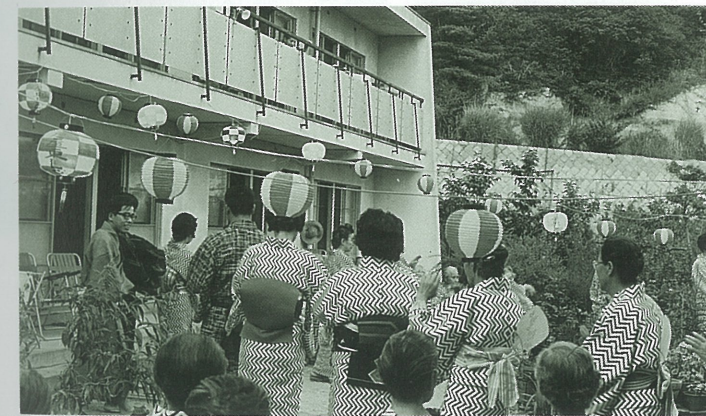
第1回敬老会に集まったお年寄り 昭和23年



昭和33年の敬老会



養護老人ホーム「和風園」 昭和46年ごろ



豊かで生きがいのある老後を(和風園) 昭和47年



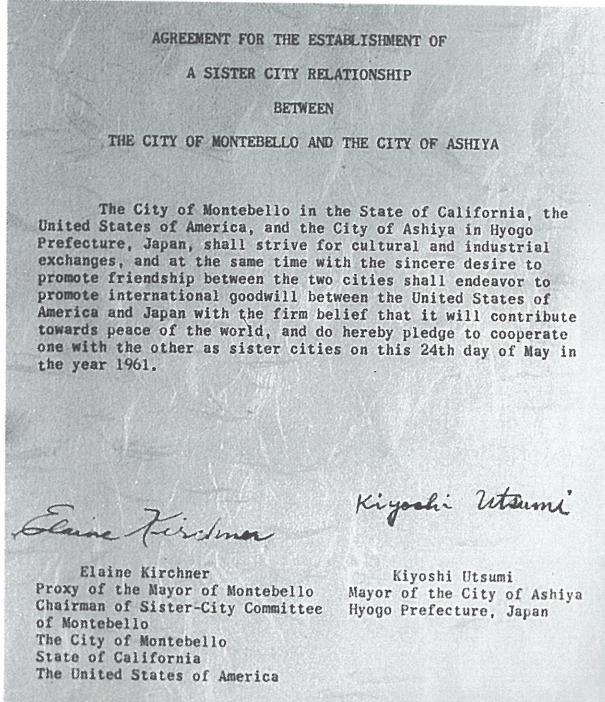
養護老人ホーム「和風園」の1日
婦人会、大東保育園児が和風園を慰問。昭和43年

モンテベロ市との姉妹都市提携

昭和36年5月、文化や経済の交流を通じ、国際理解と世界平和に寄与しようと、アメリカ合衆国カリフォルニア州モンテベロ市と芦屋市との姉妹都市提携式が行われました。

昭和36年には、山手小学校が同市グリーンウッド小学校と、43年には精道小学校が同市ウィルコックス小学校と姉妹校になりました。また、都市提携の成果を高めるため、市民交流を深める目的で、36年8月、芦屋姉妹都市協会が発足しました。

モンテベロ市との姉妹都市提携協定書



姉妹都市提携調印式 精道小学校講堂で



ミスモンテベロに囲まれた内海市長 昭和36年8月



提携式はモンテベロ市代表を迎えて 昭和36年5月24日



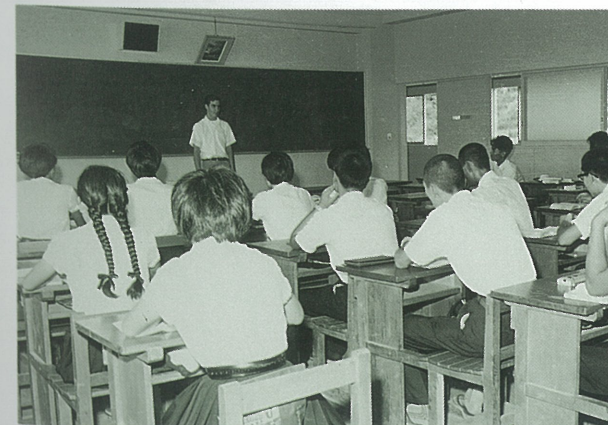
モンテベロ市から贈られた「伝道の鐘」 昭和44年2月 モンテベロバラ園に設置されている。



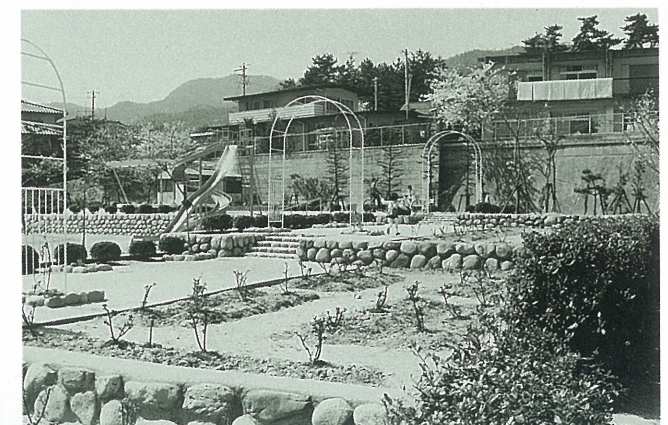
モンテベロ市にできたアシヤパーク 昭和47年8月完成



姉妹都市からの学生親善使節 昭和46年7月



来芦したモンテベロ市学生親善使節 昭和39年ごろ



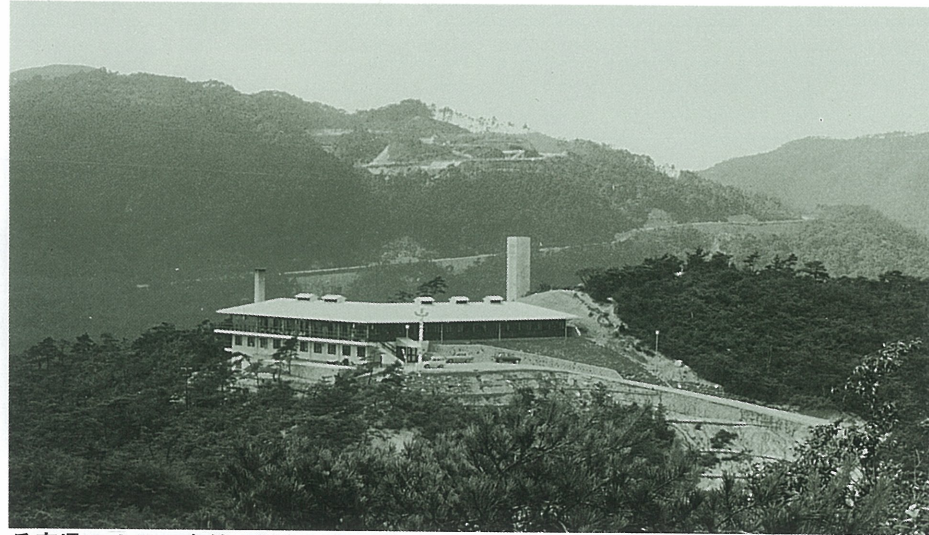
モンテベロバラ園 昭和48年10月岩ヶ平公園内に開園

ユネスコ活動

芦屋のユネスコ活動は、戦後まもなくの昭和23年、芦屋ユネスコ協力会と芦屋ユネスコ学生クラブが発足、「心の中に平和のとりでを」のユネスコ精神の普及に努めました。34年には、協力会は芦屋ユネスコ協会として再スタートを切りました。

昭和40年、日本ユネスコ運動全国大会が芦屋・西宮を

会場に開催され、以後外国人との交歓会、国際文化教室、留学生の派遣などの活動に努めました。この間、39年秋、米国コロラド州のH・ローズ夫人の5万ドルの寄付により、奥山に財団法人兵庫県ユネスコ会館が開館、開館後6カ年に欧米各地からの来館者は5千余人に達しました。



兵庫県ユネスコ会館 昭和40年6月



第21回日本ユネスコ運動全国大会 会館前でのセレモニー。昭和40年7月

世界にひろがる心のふれあい

国際化時代の潮流にあわせ、名実ともに国際文化住宅都市「芦屋」にふさわしい国際親善・文化交流を図るため、中国肇慶市(広東省)との友好を深めています。



肇慶市の温樹市長と山村市長の固い握手 昭和62年11月



七星岩 別名「星湖」 肇慶市の北4キロ離れた郊外に位置し、屹立(きつりつ)する七つの石灰岩が、北斗七星のような形に並んでいるので、「七星岩」という名がつけられた。



世界のお巡りさん宮川小学校へ 昭和45年、大阪で万国博覧会が開催され、世界のお巡りさんが来日。

警察

昭和2年精道村民の寄付によって開設された芦屋警察署も、22年12月17日警察法が公布され国家地方警察と自治体警察が設置されることになり、本山・本庄両村も管轄する芦屋警察組合警察として23年3月7日に生まれかわりました。

その後、本山村・本庄村が神戸市と合併したため、芦屋市単独で警察を設置することになり、昭和25年10月10日芦屋市警察が誕生しました。

芦屋市警察時代には「パチンコのない町芦屋」といわれ、パチンコが爆発的に流行した昭和27年ごろにも、生活環境の悪化を防ぐため市警察の強い指導でパチンコ店の進出を許しませんでした。

そして昭和29年、新しい警察法によって警察は府県警察に一本化され、芦屋市警察も改称し、兵庫県芦屋警察署がスタートしました。



昭和36年ごろの芦屋警察署



芦屋警察組合警察誕生 昭和23年



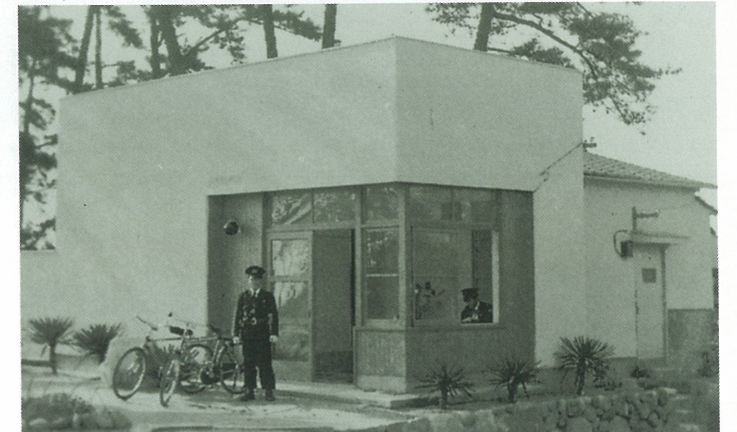
芦屋市警察誕生 昭和25年



昭和25年ごろの芦屋警察署受付



岩園巡査駐在所 昭和25年設置



月若巡査駐在所 昭和27年設置



業平橋巡査駐在所 昭和25年設置



昭和40年ごろの業平橋巡査駐在所

その他の公共施設



県立芦屋保健所 公光町に昭和22年11月開設。地方における公衆衛生の向上および増進を目指した。55年に現在地に移転。



芦屋郵便局 昭和36年ごろ



芦屋電報電話局(現NTT) 写真は昭和初期のもの。ドイツ人の設計によるもので、当時としてはモダンな鉄筋コンクリート造りの建物。



神戸営林署 剣谷森林気象観測所 昭和10年、気象観測と山火事看視の必要性から六麓荘町、剣谷国有林の標高565.6メートルのゴロゴロ岳に設置された。当時25歳の若さで池野良之助技官が着任、以後48年6月観測所廃止まで、剣谷の緑の山を守って38年間、山火事の通報や人命救助にあたり「人間灯台」と信頼された。山を下りたときは63歳。池野氏の『随想日誌』は自然と人間のかかわり方について教えている。



昭和36年ごろの芦屋税務署



兵庫県警察学校 風光明媚な朝日ヶ丘の高台にある警察学校は、昭和28年9月に建設。



海技専門学院 昭和31年当時の建物。船員に対する総合的再教育機関として昭和20年4月に発足。30年運輸省設置法の改正によって、芦屋市の現在地に移転し、翌31年6月本館が竣工、36年4月校名が海技大学校と改称された。